

温かさの中で、植物の魅力や
研究の面白さを感じられる!

薬用植物園の一般公開など
イベント参加も刺激になります

天倉吉章教授から学生へ

せっかく生薬学研究室で研究しているので、生薬・漢方薬に興味を持ってもらいたいですね。そして努力を惜まず、何事にも真摯に対応できる薬剤師・薬学研究者・薬学関連従事者を目指してほしいと思います。



薬用植物園で育てていたバナナを収穫し、追熟する過程を観察して研究室のみんなで試食!

「生薬学の学びを通して、自然由来成分が疾病予防や治療に大きな可能性を持つことを実感しました。将来は、こうした成分の力を科学的に裏付けながら、患者さんの健康に役立つ形で届けられる医療人になりたい」と目を輝かせる城戸さん。病院薬剤師として就職が決まっている越智さんも「患者さんの病気の治療だけでなく、健康のためにできる日頃の生活での工夫や、病気の予防のためのアドバイスなど、セルフメディケーションの視点からもアプローチできる薬剤師になりたい」と将来への思いを語る。

最新医療を支える医薬品開発が進む一方で、生薬・漢方薬は今も医療の中で使われ、存在感を増している。「薬の原点である天然物が、医療、健康等、人類が直面する課題に答えを与えてくれるはず。そう信じて、天然物を対象とした研究に取り組んでいます」と語る天倉教授。その情熱は、学生たちにしっかりと伝わっているようだ。

研究を通して得たものがミライへの糧になる

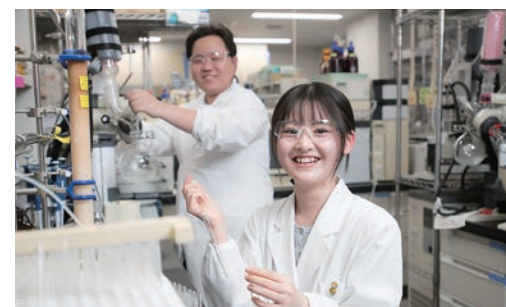
「生薬学の学びを通して、自然由来成分が疾病予防や治療に大きな可能性を持つことを実感しました。将来は、こうした成分の力を科学的に裏付けながら、患者さんの健康に役立つ形で届けられる医療人になりたい」と目を輝かせる城戸さん。病院薬剤師として就職が決まっている越智さんも「患者さんの病気の治療だけでなく、健康のためにできる日頃の生活での工夫や、病気の予防のためのアドバイスなど、セルフメディケーションの視点からもアプローチできる薬剤師になりたい」と将来への思いを語る。

添加物ブドウ果皮抽出物・ブドウ種子抽出物の成分研究」。5年次の城戸さんは、カカオに含まれるポリフェノール成分を研究している。生薬学研究室では、学生一人ひとりのペース、関心のある分野を尊重しながら、学会発表などの目標に向けて段階的にサポートする指導スタイルを取っている。

生薬学研究室は、天倉吉章教授、好村守生教授、内倉崇講師の3名の指導体制のもと、生薬や漢方薬、食品、未開発植物資源を対象に、医療や健康につながる研究に取り組んでいる。地域産業との密接な連携も特色の一つ。愛媛県のみかん研究所と協力し、愛媛県産の新品種「愛媛果試第48号」の成分研究なども推進している。

6年次の越智さんのテーマは「既存

「予想と違う結果も新たな発見のチャンス!」など、学生たちは温かい雰囲気の中で植物の魅力と研究の面白さを感じている。



研究を通して得たものがミライへの糧になる

「生薬学の学びを通して、自然由来成分が疾病予防や治療に大きな可能性を持つことを実感しました。将来は、こうした成分の力を科学的に裏付けながら、患者さんの健康に役立つ形で届けられる医療人になりたい」と目を輝かせる城戸さん。病院薬剤師として就職が決まっている越智さんも「患者さんの病気の治療だけでなく、健康のためにできる日頃の生活での工夫や、病気の予防のためのアドバイスなど、セルフメディケーションの視点からもアプローチできる薬剤師になりたい」と将来への思いを語る。

添加物ブドウ果皮抽出物・ブドウ種子抽出物の成分研究」。5年次の城戸さんは、カカオに含まれるポリフェノール成分を研究している。生薬学研究室では、学生一人ひとりのペース、関心のある分野を尊重しながら、学会発表などの目標に向けて段階的にサポートする指導スタイルを取っている。

学びの現場にフォーカス!



薬学部医療薬学科

生薬学研究室

自然の中から「くすり」を見出し、
医療や健康に貢献できる人材を目指す。

天然物の力を科学的に解明し
地域と医療に貢献する薬剤師へ

天倉 吉章 教授 →

私たち、天倉ゼミ生です!
座談会
学生メンバー



右から、越智拓斗さん(6年次生)と
城戸 彩咲子さん(5年次生)

植物の秘めた力を解き明かし
地域の健康に貢献する

添加物ブドウ果皮抽出物・ブドウ種子抽出物の成分研究」。5年次の城戸さんは、カカオに含まれるポリフェノール成分を研究している。生薬学研究室では、学生一人ひとりのペース、関心のある分野を尊重しながら、学会発表などの目標に向けて段階的にサポートする指導スタイルを取っている。